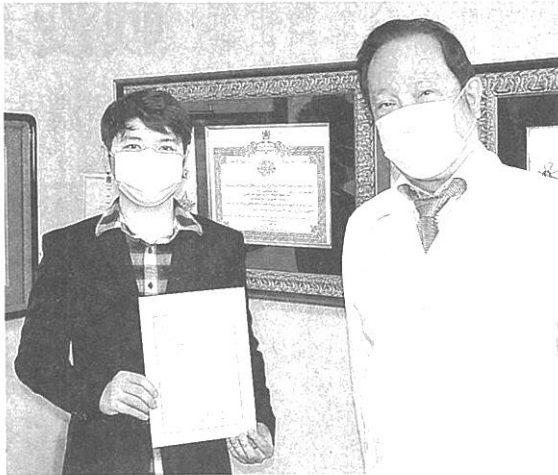


看護の道 確かな一歩



木沢記念病院 比男性が就労

資格取得へ「漢字頑張る」

美濃加茂市古井町の木沢記念病院は、日本とフィリピンの経済連携協定（EPA）に基づき、看護師候補のフィリピン人アルドリン・ゴンザレス・アルカさん（30）を採用し、辞令交付式

を行った。

アルカさんは、フィリピンで看護師資格を持ち、約4年間勤務経験がある。名古屋市内に叔母が住んでおり、今までに2度日本を旅行で訪れたことがある。

昨年来日する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の流行で、来日が延期された。今年5月に入国し、約4カ月間の日本語研修期間を終え、9月27日から働き始めた。看護助手として、手術室の看護補助などの仕事を行う。3年間の滞在期

山田實統理事長から辞令を受けたアルドリン・ゴンザレス・アルカさん（美濃加茂市古井町、木沢記念病院）

間中に看護師資格を取得すれば、引き続き日本での滞在と就労が認められる。

病院を運営する社会医療法人厚生会の山田實統理事長が辞令を交付。「国際貢献として受け入れている。新型コロナウイルス感染症に細心の注意を払い仕事に励んでほしい」とあいさつした。

同院で受け入れるEPAの看護師候補者はアルカさんで19人目で、これまでに7人の合格者を輩出した。試験では専門知識だけでなく漢字など日本語への理解も求められる。アルカさんは「日本は医療技術が進んでいるし、四季があって自然が豊か。日本の建築や木工にも興味があり、食べ物もおいしい。将来は岐阜に住めるよう、看護師を目指

して漢字の勉強などを一生懸命に頑張ります」と意気込みを伝えた。（沢野都）